



公益社団法人
鹿児島県理学療法士協会
ニュース No.109 (148)

2026. 3. 5

- 発行 公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会
- 発行人 平名章二
- 編集 丸山元大
- 事務局 〒890-0063 鹿児島市鴨池1丁目48-25
TEL 099 (203) 0860
FAX 099 (203) 0865
- 印刷 中礼印刷

総会員 2,447名 (1/15現在)

URL : <http://infokpta.com/>

e-mail : infokpta@po.minc.ne.jp



神徳稲荷神社 (鹿屋市)

目次

祝・最優秀賞受賞!	2	研修報告 大隅地区より	16
発表を経験して	3	先輩理学療法士からの活動報告	17
協会役割紹介	4	研究助成の募集について	18
アンケート結果報告 ヘルスケア事業部より	5	私と私の職場	19
スポーツ事業部報告	7	私のおすすめ	20
研修報告 専門部より	8	先輩アドバイス	21
研修報告 始良地区より	12	2026年度 会費案内	22
研修報告 北薩地区より	13	事務局だより・編集後記	23
研修報告 鹿児島地区より	15		

祝・最優秀賞受賞！ 九州理学療法士学術大会 2025 in 大分

理学療法士

富岡 一俊さん

所属先：垂水市立医療センター垂水中央病院



発表テーマ：MOMOとPSBを比較し、客観的評価及び使用感に基づいてMOMOを導入した頸椎症性脊髄症術後患者の一例

研究の概要：頸椎症性脊髄症術後患者に対し、運動療法に加え上肢装具MOMOを用いた上肢操作練習を実施することで、上肢運動機能の向上や良好な使用感を認め、客観的評価および使用感に基づいた選定により更生用装具としてMOMO導入に至った。

Q 受賞された今のお気持ちは？

A 栄えある最優秀賞をいただき、身に余る光栄です。日頃から共に臨床に励み、研究に理解を示してくれた職場のスタッフ、そして共同研究者の皆様にも心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、より一層、質の高いリハビリテーションの提供に邁進したいと感じています。

Q 発表・研究で大変だったことは？

A 2週間という短い試用期間の中で、多職種による緻密な調整と、行政手続きを並行して進めることに最も苦心しました。リハ医師や義肢装具士らと意見を交わし、承認までに時間を要する制度上の壁も乗り越えながら、最終的に処方に至った過程は、臨床における多職種連携の重要性を再認識する貴重な経験となりました。

Q これから学会発表に挑戦する方へ一言

A 学会発表は、日々の臨床で感じる「なぜ？」という疑問を深く掘り下げ、形にする貴重な機会です。自分の実践を客観的に見直すことは、自身の成長だけでなく、最終的には患者様の利益につながります。まずは小さな疑問を大切に、一歩踏み出してみてください。

Q 今後の目標や臨床への想い

A キャリアを重ねる中で、私は地域医療への貢献や後進の育成に携われることに大きな意義を実感しています。今後も日々の臨床を大切にしながら、培った知識や想いを次世代へと繋ぎ、地域の方々に専門職として寄り添える存在であり続けたいと考えています。

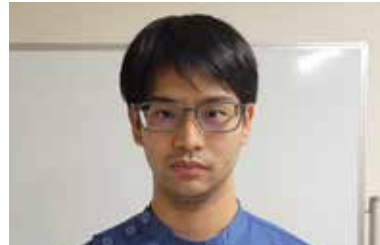
今回の受賞は、日々の臨床の積み重ねと探究心の成果です。
今後のご活躍を協会一同、心より応援しています。

学会発表を経験して 九州理学療法士学会大会 2025 in 大分

理学療法士

白 浜 佳 晃 さん

所属先：鹿児島大学病院 リハビリテーション部



発表テーマ：大動脈解離後の脊髄梗塞により対麻痺を呈した症例に対し、促通反復療法と神経筋電気刺激療法を併用し麻痺の改善が得られた1症例

研究の概要：血液透析に伴う合併症により、積極的な運動療法の実施が困難であった脊髄梗塞の症例に対し、神経筋電気刺激療法併用下での促通反復訓練を実施することで下肢運動機能の改善が得られた1症例の報告。

Q 学会発表を通して感じたことは？

A 今回の症例報告を通して、日々の業務において一症例ごとに丁寧に振り返ることの重要性を再認識しました。評価や日々の状態変化から治療選択に至った根拠を言語化することによりさらなる治療の質向上につながることを感じました。また、学会での意見交換によって、他施設での対応や考え方を知ることができ、自身の治療を見直す良い機会となりました。

Q 発表・研究で大変だったことは？

A 稀な疾患であり、リハビリテーションに関する報告が少なく、適切な参考文献を探すことに多くの時間を要した点が大変でありました。

Q これから学会発表に挑戦する方へ一言

A 日頃から診療録を丁寧にを行うことや、疑問と思ったことを都度整理することにより学会発表へとつながっていくと感じました。症例を振り返り発表することで確実に力となるため、ぜひ早いうちから前向きに取り組んでほしいと思います。

Q 今後の目標や臨床への想い

A ただ発表で終わるのではなく、本症例に類似した症例に対し治療効果を検討していくとともに、他の疾患に対しても真摯に向きあい、症例報告や研究を継続し、臨床に還元できるよう努めてまいります。

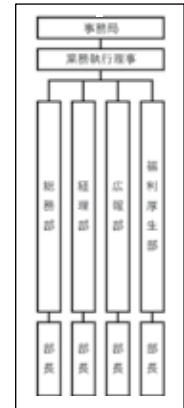
九州学会担当県からの依頼を受け、直近に開催された県士会学会等の演題発表の中から優秀な演題名及び演者を士会として推薦し、学会発表してもらった成果です。

協会の役割紹介

事務局ってどんな部局？



意外と知られていない『事務局』の役割をちょっと覗いてみませんか？



○事務局の主な機能は、総務・経理・広報・福利厚生による、士会全般の運営サポートです。日々届く膨大なメールや刊行物、申請書の調整業務を通じ、組織の基盤となる管理業務全般を遂行しています。円滑な士会運営と、会員の皆様への手厚いサポートの両立を目指しています。

総務部



● 総務部の役割は、他部門や外部団体との連絡調整、および事務局全体の環境整備です。日々届く多種多様なメールや申請書を整理し、適切な部署へと繋ぐ「組織のハブ」として機能しています。正確な事務執行を通じて、士会運営に滞りが出ないように、**裏方**として強力にバックアップしています。

経理部

● 経理部の役割は、士会のあらゆる活動の原動力となる「資金の円滑な管理」です。日々の経費精算や予算の進捗管理を通じて、各部門や委員会の事業が滞りなく遂行できるよう、正確かつ迅速な出納実務を担っています。



広報部



● 広報においては、深みのある情報を届ける「機関誌」と、即時性の高い「LINE」を使い分けることで、情報伝達の最適化を図っています。正確な事務手続きと多角的な広報活動を通じて、士会の社会的信頼の向上と、会員満足度の最大化に努めています。

福利厚生部

● 福利厚生部の役割は、会員の皆様の生活や活動を豊かにする「交流の場づくり」です。士会での活動がより価値あるものになるようバックアップしています。



アンケート調査報告 (ヘルスケア事業部より)

職能局 担当理事 福永 裕樹

職能局 担当理事 榎畑 純二

ヘルスケア事業部 部長 小野 恵

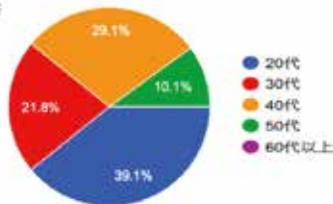
テーマ：「女性特有の身体不調や働き方に関するアンケート」
 対象：女性理学療法士
 期間：12月中旬～1月末日

ヘルスケア事業部では、県民の健康延伸、産業理学療法、ウィメンズヘルスケアなど、様々な職能活動を行なっております。今回、女性理学療法士を対象として、働き方、協会活動への参加状況、ならびに妊娠・出産や婦人科系疾患等の女性特有の課題を把握し、現状とニーズを知り、情報提供を行うとともに今後の活動へ活かしていくことを目的にアンケート調査を実施いたしました。幅広い年代・勤務形態の女性理学療法士から179件の回答を得られたため、以下にご報告させていただきます。

〈基本情報〉

Q1. あなたの年代を教えてください。

179 件の回答

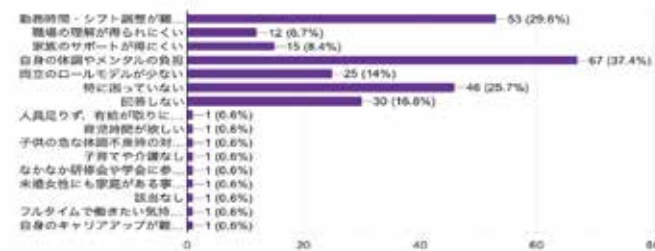


年代は30～40代が中心で、20代から50代以上まで幅広い層が含まれており、さまざまなライフステージにある女性理学療法士の現状が反映された結果となった。勤務形態は常勤（正職員）が最も多く、一方で非常勤・パート勤務、育児休業中の回答も一定数みられた。勤務先は病院を中心に、訪問リハビリ、介護・福祉施設、教育・研究機関など多岐にわたり、女性理学療法士の活躍の場が多様化していることがうかがえた。

〈働き方と両立について〉

Q11. 仕事と家庭(子育てや介護等)との両立で、困難を感じたことがありますか？(複数回答可)

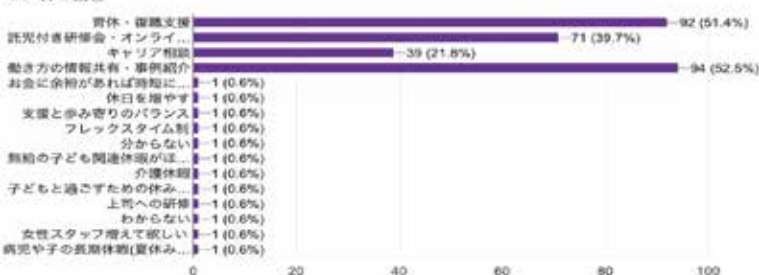
179 件の回答



働き方については「満足」「やや満足」と回答した割合が多く、全体として一定の満足度が示された。一方、配偶者・パートナーの育児休業取得については、取得していない、または取得が難しかったとする回答も一定数みられ、家庭内での役割分担が多様であることがうかがえた。仕事と家庭（子育て・介護等）との両立については、困難を感じた経験があると回答した方が多く、特に時間的な調整に関する項目、自身の体調やメンタルの負担が多く選択された。両立しやすいと感じる支援として、制度そのものに加え、実際の経験や事例を知る機会へのニーズが高い結果となった。

Q12. どのような支援があれば、両立しやすいと感じますか？(複数選択可)

179 件の回答

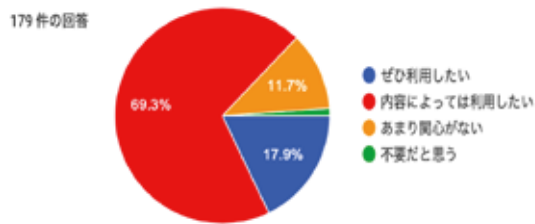


<女性特有の健康・ウィメンズヘルスについて>



女性特有の健康課題やウィメンズヘルスに関しては、多くの回答者が何らかの不調や悩みを経験していることが明らかになった。月経に伴う体調不良、妊娠・出産、更年期に関する悩みなど、年代やライフステージによって内容は異なるものの、業務への影響を感じているという回答も少なくなかった。

Q17. 「女性の健康やライフイベント」に関する情報発信・相談体制があれば利用したいと思いますか？



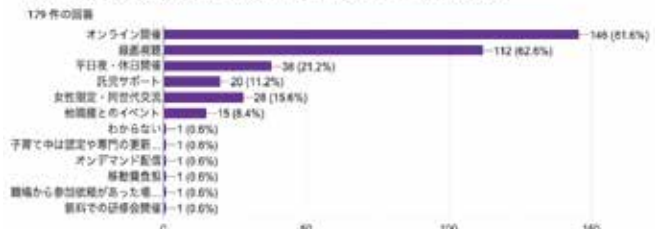
一方で、これらの健康課題について、専門職であっても個人的な問題として抱え込みやすい現状がうかがえた。ウィメンズヘルスに関する情報提供や学びの場については、「ぜひ利用したい」「内容によっては利用したい」という回答が多数を占めており、正しい知識の共有や、同じ立場の女性理学療法士同士が安心して話せる場へのニーズが高い結果となった。

<協会活動について>

Q18. 協会の活動や研修会への参加状況を教えてください。



Q20. どのような工夫があれば参加しやすいと感じますか？（複数選択可）



協会活動には「参加したいが難しい」との回答が多く、時間や家庭との両立が主な要因として挙げられた。一方で、オンライン開催や録画配信など、参加しやすい形式へのニーズが高いことも明らかになった。

<会員の声（自由回答より）>

- ・「妊娠や子育てへの理解は進んでいますが、更年期の不調については、本人も周囲も言い出しにくく、悩んでいる方が多いと感じます。」（40代・常勤）
- ・「ウィメンズヘルスの知識を深めたい気持ちはありますが、職場にその分野がなく、どこから始めればよいのか分からず躊躇しています。」（30代・病院勤務）
- ・「女性の健康について気軽に情報を共有できる場が増えることで、日々の働きやすさにもつながっていくのではないかと思います。」（年代非公開）

まとめ

本アンケートを通じて、女性理学療法士の働き方や健康に関する現状とニーズを把握する貴重な機会となりました。ご多忙の中、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。いただいた調査結果は今後の協会活動や事業に活かすとともに、引き続き、他調査での情報提供等も行なっていきたいと思っております。

スポーツ事業部報告

スポーツ事業部担当理事 大渡 昭彦

スポーツ事業部部長 牛ノ濱政喜

スポーツ事業部部長 松田 史代

○鹿児島県高校野球連盟 肩肘検診報告

テーマ：「令和7年度 高校野球肩肘検診会」

会場：今村総合病院スポーツ整形外科リハビリセンター

日時：2025年12月7日、12月21日

2026年1月11日、1月25日

参加者：県内の高校野球選手 300名

協力者：県内理学療法士会会員 42名（延べ84名）

☆内容☆

スポーツ事業部では、鹿児島県高等学校野球連盟と協力いたしまして「高校野球肩肘検診会」を開催しております。この事業は今年で3年目となり今年度は12月7日、12月21日、1月11日、1月25日の計4回で、高校生約300名の参加がありました。毎回事前研修会を受講された先生方にご協力いただいております。また今年度は3回目の1月11日天候の悪い中、福岡県の施設からも見学にいられておりました。

前回のニュース便でもご紹介いたしましたが、事前研修会は例年、今村総合病院スポーツ整形外科リハビリセンターの吉田研吾先生に講師をお願いして開催しております。本事業は選手のみならず、指導者や高等学校野球連盟の先生方からも大変好評をいただいております。選手はまず受付で「問診表」に記入し、「フィジカルチェック」を受け、「エコー検査」、「コンディショニング指導」という流れで進んでいきます。「フィジカルチェック」では、事前研修会で学んだ技術を2名1組（経験年数の少ない先生と多い先生）で協力しながら行い、臨床教育の一環としても意義のあるものになっていると感じております。情報交換をしながら、交流もできて、技術を実践できる良い機会であると思っております。来年度も引き続き行っていく予定ですので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、会場設営に毎回ご協力いただいた今村総合病院スポーツ整形外科の先生方、フィジカルチェックおよびエコー班の理学療法士の方々、高野連との調整係をお願いしております轟原先生に心から感謝申し上げます。



【研修風景の写真】



フィジカルチェック



エコー検査



コンディショニング指導

研修報告（専門領域研修部より）

専門領域研修部担当理事 神田 勝利
部長 戸田 博之
神経系担当 上橋 秀崇

○令和7年度 専門領域研修部 神経系研修会報告

テーマ：「中枢神経疾患に対するボバース概念による評価と治療～起立・立位から歩行～」

講師：鈴 東 伸 洋 先生

会場：鹿児島医療福祉専門学校5階講堂

日時：11月23日

参加者：13名

☆講義内容☆

- ・ボバース概念と理学療法
- ・起居動作～起立までの身体の動きの捉え方～治療の実技

参加者の意見・感想

「技術指導の解説はとても明快」

「臨床推論力などが高められる」

所感

理学療法士として患者と真摯に向き合う姿勢や鈴東先生の熱い思いから、ボバース概念を元に姿勢～動作の観察・評価・治療を脳生理学の視点からも説明していただき、患者を診る事の大切さ、向き合う姿勢が高められ、受講生みんなが同じ気持ちになる一体感が生まれた研修会でした。



研修風景の写真

研修報告（専門領域研修部より）

専門領域研究部理事 神田 勝利

運動器系担当 重信 邦弥

○令和7年度 専門領域研修部 第2回 運動器系研修会報告

日 時：令和7年12月14日（日）9:00～12:10

場 所：今村総合病院スポーツ整形外科ハビリセンター

テーマ：変形性膝関節症・半月板損傷に対する徒手療法と運動療法

講 師：白尾 泰宏先生

毎回好評を頂いている運動器の専門領域研修会を開催いたしました。本研修会は今年度2回目の開催となり、前回に引き続き白尾先生を講師にお招きし、「変形性膝関節症および半月板損傷に対する徒手療法と運動療法」をテーマに、実技研修を開催致しました。

当日は19名が参加し、基礎的な解剖学の確認から触診に始まり、movement diagramを用いた膝関節の主観的評価、バイオメカニクスに基づく評価・解釈、関節可動域制限に対する徒手アプローチについて学びました。さらに、治療介入として大腿四頭筋セッティングや、ボバース概念の考え方も取り入れた内側広筋の収縮促通など、疾患や症例に応じた具体的な治療手技について、講和と実技練習を通してご指導いただきました。

研修会中は参加者が終始熱心に取り組まれ、実技練習では活発な質疑応答も行われるなど、明日の臨床に直結する知識と技術を共有する非常に有意義な研修会となりました。

来年度の運動器系研修会においても白尾先生に講師をご依頼する予定としております。開催案内につきましては、県士会HPやLINE等でお知らせいたしますので、ご確認のうえ、来年度もぜひ奮ってご参加ください。



研修風景の写真

研修報告（専門領域研修部より）

専門領域研究部理事 神田 勝利

小児系担当 竹田 孝幸

○令和7年度 専門領域研修部 小児系研修会報告

テーマ：小児理学療法における歩行評価について

講師：宮原 慎吾 先生

（社会福祉法人向陽会やまびこ医療福祉センター 発達障害認定理学療法士）

日時：2025年12月14日（日）9:00～12:10

場所：鹿児島医療福祉専門学校2階新大教室

参加者：7名

令和7年度小児系研修会を上記の通り開催しました。テーマである小児理学療法における歩行評価について、基本的な事項からお話いただきました。小児期疾患特有の評価も少なくなく、歩行におけるどのようなパラメーターを評価し、それに対応した様々な評価尺度と使用方法、解釈についてご教示いただきました。教材ビデオを参照してグループワークなども行い、大変充実した内容でありました。ご参加いただいた方からも、「非常にわかりやすい内容で、臨床に活かしていきたい」との感想もいただきました。

小児分野のリハビリテーションに地域で関わる機会が増えてきている現況から、小児分野に少数ながら関わっておられる方も増加しているのではないかと思います。お気軽にご参加お待ちしております。



※ 来年度企画に関しまして、ご意見やご要望などがございましたらお聞かせ下さい。

小児系研修会企画運営スタッフ随時募集しております。

（フクダ医院 竹田：reha_syounikei@fukuda-hos.org）

研修報告（専門領域研修部より）

専門領域研修部担当理事 神田 勝利
部長 西 洋樹
呼吸器系担当 坂元 将也

○令和7年度 専門領域研修部 呼吸器系研修会報告

テーマ：① 姿勢の呼吸への影響 ～肺炎、ポジショニングや排痰～
② 呼吸器疾患に対する理学療法 ～姿勢が身体に与える影響～

講師：① 西 賢一郎 先生（いづろ今村病院）
② 永田 健二 先生（鹿児島生協病院）

会場：鹿児島医療福祉専門学校 南星ホール

日時：2025年12月14日 9:00～12:15

参加者：12名（理学療法士協会会員 10名、県内言語聴覚士 2名）

今回、「呼吸器疾患と姿勢」というテーマで、2名の講師による研修会を開催しました。前半の西先生の研修では、姿勢の変化が呼吸機能に与える影響や誤嚥性肺炎治療の理学療法とポジショニングについてご講演いただきました。気管支体操では、西先生がデモンストレーションをしてくださいました。後半の永田先生は、早期離床が呼吸機能や嚥下機能に与える影響、呼吸の運動学では胸郭の解剖と筋の解剖についてご講演いただきました。呼吸補助筋の多くの起始停止がある胸郭のアライメント調整では永田先生が胸郭運動システムのデモンストレーションをしてくださいました。限られた時間ではありましたが、臨床に活かせる研修となりました。

今年度も多くの会員の方々と一緒に学ぶ機会を設けることができました。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。



研修報告 (始良地区より)

始良地区担当理事 鈴木 伸洋

始良地区長 福榮 竜也

○令和7年度 第2回始良地区 研修会報告

テーマ：『心疾患に必要な評価とエビデンス』

講師：鹿児島市立病院 宮崎 晋宏 先生

日時：令和7年11月14日(金) 19:00～21:00

会場：Web開催(Zoomミーティング)

参加者：80名

第2回始良地区研修会をZoomにて開催いたしました。今回は循環器疾患に対する学会発表や心臓リハビリテーション指導士としてご尽力されている鹿児島市立病院 宮崎晋宏先生に講師をお願いし開催することができました。多数の地域からお申込みいただき、80名を超える研修会となりました。

今回の研修会は、心不全の概要、必要な情報収集(検査や指標含む)、理学療法の進め方、急性期からの申し送りのポイント、エビデンスと医療の質といった充実した内容でありました。心不全患者だけに限らず、心不全発症前の危険因子を理解し、予防していくことの重要性について、2025年改訂版心不全診療ガイドラインの内容を踏まえながら、より最新の情報をご教授いただきました。研修後半には、具体的に症例提示もしていただき、より臨床場面をイメージすることができ、明日の臨床にすぐに活かすことのできる内容でありました。



研修報告 (北薩地区より)

北薩地区担当理事 鈴木 伸洋
北薩地区長 久木山晃洋

○令和7年度 第1回北薩地区 研修会報告

テーマ：足関節果部骨折の基礎理学療法
講師名：栗 巢 菜 美 氏 (整形外科松元病院 理学療法士)
会場：Web開催 (ZOOM)
日時：令和7年11月5日 (水) 19:00~21:00
参加者：57名

カリキュラムコード：84「骨関節障害」

本研修会は、足関節果部骨折の病態理解から術後の評価・治療介入まで、理学療法士が臨床で必要とする基礎知識と実践的な流れを習得することを目的として開催されました。

所感
本研修会は、日常臨床で遭遇頻度の高い足関節果部骨折に対し、最新の知見と具体的な手技を学ぶ貴重な機会となりました。病態理解に留まらず、疼痛コントロールや筋機能改善、段階的な荷重訓練に至るまで、エビデンスに基づいた実践的な理学療法の介入の流れを明確に掴むことができました。
特に、機能訓練における代償動作 (母趾・足趾の屈伸) を防ぐための固定法の工夫や、荷重量を管理しながらのステップトレーニングなど、明日からの臨床に直結する具体的な技術の紹介は、参加者にとって極めて有益であったと考えられます。
参加された理学療法士の皆様には、本研修で得た知識と技術を日々の業務に活かし、患者様の早期回復に貢献されることを期待いたします。



研修会報告 (北薩地区より)

北薩地区担当理事 鈴木 伸洋

北薩地区長 久木山晃洋

○令和7年度 第2回北薩地区 研修会報告

テーマ：目の前の患者さんは食事を食べていますか？ 栄養は足りていますか？

講師名：肱 岡 澄 氏 (川内市医師会立市民病院 栄養管理部 課長 管理栄養士)

会場：Web開催 (ZOOM)

日時：令和7年12月17日 (水) 19:00~21:00

参加者：56名

カリキュラムコード：140「リハビリテーション栄養」

本研修では、管理栄養士の視点から「栄養ケアなくしてリハなし」という基本理念に基づき、理学療法の実践における栄養管理の重要性について講義が行われました。

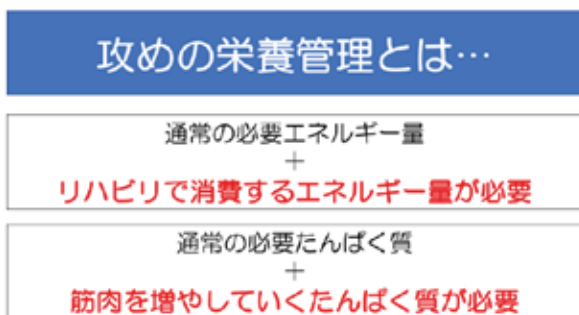
所感

本研修を通じて、私たち理学療法士が「動かす」ことと同様に、そのエネルギー源である「栄養」を把握することがいかに不可欠であるかを深く学びました。

特に、エネルギー不足下でのリハビリが逆に筋肉を分解させてしまうという指摘は、臨床において最も警戒すべきリスク管理の視点です。提示された具体的な摂取指標を基準値とし、今後は食事摂取状況にも注視しながら、管理栄養士と密に連携する体制を現場で整えていく必要があります。

栄養という強固な土台の上にこそ質の高い理学療法が成立するという視点を持ち、日々の臨床において、患者さんの小さな変化に一步踏み込んで寄り添う実践を積み重ねていきたいと考えております。

最後になりますが、本研修で得た知見が参加された皆様の業務に浸透し、リハ栄養の視点を持った適切な介入を通じて、患者様の笑顔と早期回復に繋がることを心より期待しております。



研修報告（鹿児島地区より）

鹿児島地区担当理事 東 幸太
理事 川上 剛/久米 康隆
鹿児島地区 中央地区長 谷吉 航

○鹿児島地区研修会報告（中央地区）

テーマ：筋・筋膜性腰痛の評価とアプローチ
講師：山崎 数馬 先生
会場：みらいリハビリテーション病院
日時：2026年1月16日
参加者：26名

☆講義内容☆

- ・腰痛の原因と筋・筋膜の解剖学
- ・症例を通した浅筋膜・深筋膜への介入

参加者の意見・感想

「実技を中心に実際に体験でき非常に勉強になった。」
「症例を通した実技で分かりやすかった。」

所感

筋・筋膜に関する「解剖学的視点」と、臨床ならではの「肌感」を体験することができ、受講者も対面ならではの講習に、熱心に取り組まれていました。また、症例を通し、評価やアプローチの方法を説明して頂き、明日からの臨床に繋がる講習会となりました。



研修風景の写真

研修報告（鹿児島地区より）

鹿児島地区担当理事 東 幸太
理事 川上 剛/久米 康隆
鹿児島地区 南部地区長 川元 大輔

○鹿児島地区研修会報告（南部地区）

テーマ：投球障害に対する評価・治療の流れ
～患部・全身・動作を診る～
講師：鹿児島中央整形外科スポーツクリニック
東 伸一郎 先生
会場：鹿児島医療技術専門学校
日時：12月12日
参加者：24名

☆講義内容☆

- ・投球障害の理解、患部から他関節へ広げる評価、個別性の高いフォームに潜むリスクの把握と実践

参加者の意見・感想

「ランジ位評価・治療は実践に移しやすいので、ポイントを押さえ導入してみます！」

所感

肩の標準的な評価に限らず、立位やランジ位で介入することで、他関節との関連性を追求し、治療に結びつけることを学びました。参加者も熱心に実践に取り組まれており、関心の高さを感じました。



研修風景の写真

研修会報告 (大隅地区より)

大隅地区担当理事 永瀆 良大

大隅地区長 新保 千尋

○令和7年度 第2回大隅地区 症例検討会報告

タイトル：「歩行時の過度な下腿前傾に対し、立ち上がり動作による運動療法的に効果的であった症例」

発表者：木原田 竜 樹 PT (恒心会おぐら病院)

会場：Web開催 (Zoom)

日時：令和7年12月5日 (金) 18:30~19:00

参加者：27名

参加者の意見・感想

「大腿骨転子部骨折は高齢者に多い疾患で、症例報告でもあったように受傷・術後の筋力低下などをきたしやすいです。今回はバイオメカニクスの視点から動作分析、理学療法介入を行っており勉強になりました」

所感

第2回大隅地区症例検討会を12月5日に開催し発表を行っていただきました。参加者の質疑も第1回時と同様に建設的な意見が多く、発表者だけでなく、聴講者も学びが多い会になったと思います。

今回の症例では大腿骨転子部骨折術後の筋力低下に対し、筋力低下を骨折線などの要因から先行研究を参考に考察されていました。また、その筋力低下に対し、バイオメカニクスの視点から問題点や理学療法介入について検討していました。筋力低下などの要因は様々であります。その症状が生じている時期にどのようなことを考えてくかが重要になることを再認識しました。

症例をまとめることで自身の思考過程や場合によっては反省点なども生じるかと思いますが、この課程が今後活かされていくと考えています。

次年度も引き続き症例検討会を開催していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



先輩理学療法士からの活動報告

八反丸リハビリテーション病院 入井 裕太

鹿児島大学医学部保健学科 松田 史代

○第24回全国障がい者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ2025）帯同報告

会 場：平和堂HATOスタジアム（滋賀県彦根市）

日 時：2025年10月23日～28日（公式練習日24日、大会25～27日）

☆内容☆

滋賀県で開催されました第24回全国障がい者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ2025）の鹿児島県代表選手団にコーチ・トレーナー：入井裕太（八反丸リハビリテーション病院）と総務：松田史代（鹿児島大学医学部保健学科）の2名の理学療法士が帯同しました。県大会で選出された鹿児島県代表選手の陸上・フライングディスク競技の強化練習会（6～10月実施）を中心に毎年サポートしています。鹿児島県選手団に理学療法士がサポートで入り、20年近くになります（竹内直人PT：八反丸リハビリテーション病院がトレーナーで帯同したのが最初の関わりになります）。強化練習会には、八反丸リハビリテーション病院の理学療法士数名が毎回ボランティアで協力してくださり、フィジカルコンディションのみならず、練習会の運営サポートを行っています（鹿児島大学保健学科の学生もボランティアで参加しています）。陸上以外の鹿児島県代表選手のメディカルチェックや、障害区分が設定されている競技・疾患は区分判定のチェックなども私たち理学療法士が役割を担っております。

肢体不自由の身体障がいのみならず、視覚障害、聴覚障害、知的障害、精神障害など（今年は内部障害の選手はゼロ）多岐の障がいを呈した選手と、毎年、開催県・開催地までの移動、大会期間中の生活・精神面サポートなど理学療法士としての職域を大きく発揮できる場であり、また、監督はじめ帯同役員、選手・家族に理学療法士を知ってもらう機会にもなっています。医療機関内で行う理学療法とは、また一線を画した活動になりますが、理学療法の知識・技術をどのように発揮できるか有意義な場・時間であるとともに、選手の成長などを間近で感じられ、とてもやりがいのある活動です。今後、体制を整え、スポーツ事業部として活動サポートや研修会など開催できればと思っております。パラスポーツもとてもやりがいのある分野です。ぜひ、皆さんも興味を持っていただけたら幸いです。



（開会式入場行進前のコマ）

Check! 鹿児島県理学療法士協会
令和8年度研究助成の募集

あなたの研究を支援します

助成金10万円
最大5件

理学療法
かごしま
論文投稿

研究助成でできること



延長しました

申請受付期間
3月31日まで

令和7年度 採択テーマ

霧島市で勤務するリハビリテーション専門職が感じる若年性脳卒中者の復職・就労に対する意識調査

合同会社 SmileLife 中村 大輔

鹿児島県理学療法士協会研究助成委員会では、理学療法の学術的あるいは臨床的発展を望めるような研究を支援しております。

すでに研究を始めている方だけでなく、研究に興味があってこれから始めてみたい方など、多くの先生方の申請をお待ちしております。

詳細はこちら ➡

鹿児島県理学療法士協会研究助成委員会
<http://infokpta.com/publics/index/161/>
(鹿児島県理学療法士協会ホームページ)



私と私の職場

医療法人 八宏会 河井脳神経外科

濱島 慎吾

向春の候、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回は、私の職場である「河井脳神経外科」をご紹介します。

当施設は、有床診療所の一般病床で、脳神経外科の単科の診療所です。R 7年1月より全面的なリフォームを得て、リニューアルオープン致しました。診療所ながらも、24時間体制で救急対応を行い、脳卒中を中心とした脳血管障害の内科的治療や、慢性硬膜下血腫等の局所麻酔で行える手術を実施しており、脳梗塞の急性期治療ではtPA療法を実施可能な施設です。リハビリテーション科は、PT 3名、OT 3名、ST 1名、介護福祉士2名（通所リハビリ相談員）、マッサージ師1名の計10名となっております。発症直後の急性期の入院リハビリ、外来リハビリ、短時間通所リハビリを実施しております。理学療法の対象となる脳卒中においては、急性期の外科的治療、血栓回収などの血管内治療まで行える医療機関に集約していくという情勢があり、当診療所では純粋な脳卒中だけの患者は減少傾向で、何らかの認知機能低下を伴う症例、施設入所者などの多疾患の症例などが多くなる等、患者層に変化が起きております。そういった情勢の中で、理学療法士として、脳卒中片麻痺だけを見ても対応出来ない現実があり、高齢者そのものをみる、認知機能の低下にどのように対応していくかといった事が問われていると感じております。

私は、21年目になりますが、脳卒中認定理学療法士、介護支援専門員の資格を取得し、数年前より理学療法士ながらも地域医療連携室の室長という特殊な立場で勤務しております。理学療法士は医師、看護師と医学的な部分でディスカッションが行える職種であり、様々な場面でマネジメント力を発揮できる職種だと思っております。

また、R 6年8月より、地域医療連携室の中で在宅診療部門として訪問診療を立ち上げました。理学療法士としての知識・技量も生かしつつ、医師と共に在宅医療へも貢献していきたいと考えております。

理学療法士は、患者層・家族背景の多様性が加速していく中で、どのような生活方法の提案が行えるのか、退院後に理学療法士がどのように関わり続けられるのか、関わりがなくなってしまう症例にどのような事が必要なのか、対象者の10年、20年後の生活を想像して理学療法を提供するだけではない新たな関わり方を考えていく必要があるのではないかと感じております。今後も新しい理学療法士としての形を模索しながら精進して参りたいと思います。



私のおすすめ

【本のタイトル】「適切な判断を導くための整形外科徒手検査法 エビデンスに基づく 評価精度と検査のポイント」

医療法人 玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

東 健人

私が働き始めてから臨床で日々苦勞していることは、患者様に対して、適切な評価や評価に対する判断ができているのかということです。もちろん、接遇やコミュニケーション、治療も大事であり、患者様との信頼関係も生まれていくと思います。

しかし、働き始めて1、2年目に時折みられたのが、経験年数が少ないからという理由で患者様から信頼を得られなかったり、不安に感じさせてしまったりするということがありました。実際患者様からみたら、経験年数が豊富なセラピストにリハビリをしてもらいたいと思うのが当然ですし、自分の知識不足が原因だったと思います。

そこで、少しでも患者様に対して、信頼してもらえるようにと思い購入したのが、この本でした。

整形外科的テストは、専門学校の教科書や先生方にも教わりましたが、実際に臨床では教科書に載っていたものだけでは評価できないものや、きちんと理解をせずに行っていたものもありました。この本では、各関節や部位ごとの評価法や、どの検査が必要かのフローチャートが見やすくまとめられており、検査のポイントや感度・特異度も一目で分かりやすいものが多かったです。実際に臨床で評価を行い、患者様に対して検査の意義や疾患に対する臨床的特徴を伝えることで、納得されることが多くなったと感じました。

私が働いている病院では整形疾患の患者様も多く、入院の原因になった疾患に加えて、さまざまな既往歴をもった方がたくさんいます。いろんな視点から評価が必要なことも多く、分からないことや迷うことがあれば、この本を見直すことで評価の見落としが少なくなったと思います。今後も、広い視点で評価ができるよう先入観を持たずに評価できるようにしたいと思います。

先輩のこと教えてください！ interview

このコーナーでは、鹿児島県内で長年理学療法士として活躍されてきた方をご紹介します。



理学療法士
瀧山 晃司さん

所属先：大海宮崎クリニック（薩摩川内市）

経験年数：17年目

座右の銘：自利利他

Q 理学療法士を目指したきっかけは？

A 進路に悩んでいた時に、母の勧めで病院のリハビリ室を見学したことがきっかけです。

Q これまでの経験で、特に注力してきたこと、特に思い出に残っていることは？

A 以前は所属内外での研修参加や運営などに取り組んできました。
最近では市町村の介護予防事業へ参加させて頂いたり、他施設の腰痛健診や産業保健センターでの活動など病院以外での職域の活動にも注力しています。

Q 今後の目標は？

A 現在取り組んでいる産業保健領域での活動を広げて、鹿児島でこの分野における理学療法士の認知度向上に貢献していきたいです。

Q 最後に！後輩へ向けて、メッセージをお願いします！

A 上記の経験のどれもが人との繋がりの中で経験させて頂いたことです。
新しいことを始める、新しい環境に飛び込むことで人と出会い、視野が広がっていくことを感じています。なにか変えたいタイミングでは新しい環境に飛び込む・新しい人と出会うことを意識してみてもいいのではないでしょうか。

事務手続きのご案内・連絡事項

新年度にむけて異動・休会・退会の申請は早めをお願いいたします。
年会費前納制となったことにより、異動申請により請求手続きに影響する場合がございます。
詳細は日本理学療法士協会ホームページをご確認ください。

**2026年度の年会費の納入期限は
2026年3月31日までです!!**

■年会費 **19,000円**

(日本理学療法士協会会費 10,000円 + 鹿児島県理学療法士協会会費 9,000円)
別途所属学会・研究会・サスグループの会員種別で年会費がかかる先生方は+αとなります。

■会費納入期限 **3月31日**

(クレジットカード払いの方は2月下旬に請求手続きが実施されています。各自ご確認ください。)

*日本理学療法士協会より一括請求になります。また、請求方法により締め切りが異なります。日本理学療法士協会よりお手元に届いたハガキの文書をご確認いただけますようお願い申し上げます。



3月末日までに年会費の納入をされなかった場合

4月より、以下会員権利を全面停止となり、退会手続きが始まります。

(勤務先都合により事前に連絡のあった方、復会申請中の方を除く)

- ・研修会・学会等への参加申込
- ・会員としての各種演題登録
- ・会報誌・学術誌の発送
- ・理学療法士賠償責任保険の全員加入・任意加入(新規および継続)
- ・選挙権・被選挙権 他

退会後は、**生涯学習履歴は全て無効**となります。

再度入会を希望される際にはあらたに入会手続きが必要となり、すべて再履修いただくこととなります。

来年度新入職員が入られる施設の先生方へ

4月から新年度を迎え、新しく職員を受け入れられる施設も多いと思います。
入会申込後、入会金および年会費の納入を確認したのち、日本理学療法士協会の理事会で承認され、正会員として登録されるため、入会手続き後、正会員承認までは数か月を要します。その為、研修会参加時に登録が完了していない場合、非会員扱いとなってしまいます。入職後、直ちに手続きをされるようご指導をよろしくお願い致します。

*また、4月19日に新卒者オリエンテーション(鹿児島大学医学部保健学科
インテリジェント教室にて)を予定しています。
入会手続き中の有無に問わず、参加可能です。詳細は決まり次第県士会ホームページでご案内します。



事務局だより

令和7年11月16日～令和8年1月15日現在受理分

学術誌

- 鹿児島大学医学部リハビリテーション医学教室
活動報告 令和6年度
- 理学療法ジャーナル 第59巻第12号
- 鹿児島県医師会報 第894号
- 鹿児島県医師会報 第895号
- 理学療法ジャーナル 第60巻第1号
- 北海道理学療法 第42巻
- 県薬会報 第192号
- 九州理学療法学会大会2025in大分
- 理学療法兵庫 第31号
- 日本理学療法士協会60年史

会長行動録

- 12月8日 業務執行理事会
- 12月10日 理事会
- 12月16日 POS連絡協議会理事会
- 12月19日 県リハ施設協議会
- 12月25日 地域リハ広域支援センター意見交換会
- 1月13日 業務執行理事会
- 1月14日 理事会
- 1月19日 県連盟総会
- 1月23日 事務局システム打ち合わせ、予算会議

ニュース

- 兵庫Vol. 208 和歌山No.106
- 大阪No.313 (ダウンロード版) 秋田Vol. 219(WEB版)
- 長野No.92 静岡No.212 大阪No.313

<会員動向> (11/15～1/15定期承認まで)

入会1件 県内異動19件 転入3件 転出5件
休会24件 休会継続201件 復会1件 退会19件

会員動向に関する詳細は非公開とします。

会員数 2447名
会員所属施設数 460施設



編集後記



新年も過ぎ、鹿児島は比較的穏やかな冬の日が続いています。私は友人と来年の鹿児島マラソン出場を目指すことになりましたが、走り切れる自信が全くありません。皆様も新年の抱負や目標を立てたと思いますが、体調に気をつけて、残りの冬をお過ごしください。

広報誌に関してご意見等ございましたら、広報部まで連絡をお願いします。

reha@kthc-hp.com

広報部 東 健人